

# 刈谷市障害者計画・刈谷市障害福祉計画・ 刈谷市障害児福祉計画策定にかかる アンケート結果報告書

## 【 概 要 版 】

### 1 調査について

#### (1) 調査の目的

刈谷市の障害福祉に対する意識や実態等を把握し、「刈谷市障害者計画・刈谷市障害福祉計画・刈谷市障害児福祉計画」策定の基礎資料とすることを目的として、障害者手帳所持者（身体障害者手帳所持者、療育手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者）、障害福祉サービス利用者を対象にアンケート調査を実施しました。

#### (2) 調査の概要

##### ■調査に関する事項（各調査共通）

区分	内容
調査票の配布・回収方法	郵送配布・郵送回収（一部WEB回答）
調査基準日	令和4年11月1日現在
調査期間	令和4年11月19日～令和4年12月9日

##### ■配布・回収に関する事項

区分		障害者	障害児
調査対象者	条件	障害者手帳所持者	障害者手帳所持者 障害福祉サービスなどを利用している 18歳未満
	調査数	1,826人	524人
	所持者数	5,971人	771人
有効回収件数		964件（うちWEB 81件）	261件（うちWEB 47件）
有効回収率		52.8%	49.8%

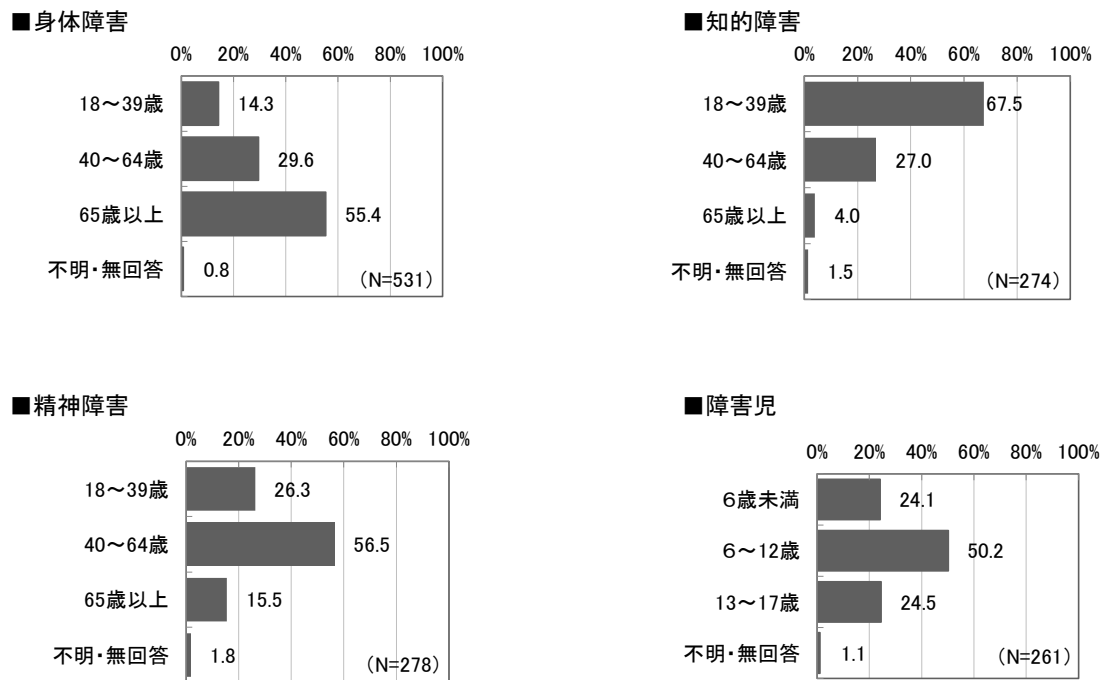
## 2 調査結果

### (1) 回答者の基本属性について

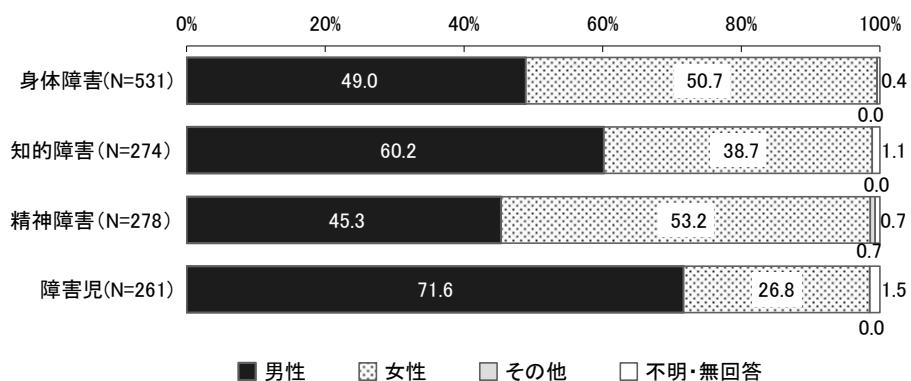
○回答者の年齢は、身体障害は過半数が65歳以上の高齢者となっています。知的障害は40歳未満、精神障害は40～64歳がそれぞれ高く、回答者の年齢構成に特徴があります。(図表1-1)

○性別では、知的障害、障害児で男性の割合が高くなっています。(図表1-2)

図表1-1 年齢



図表1-2 性別 (単数回答)



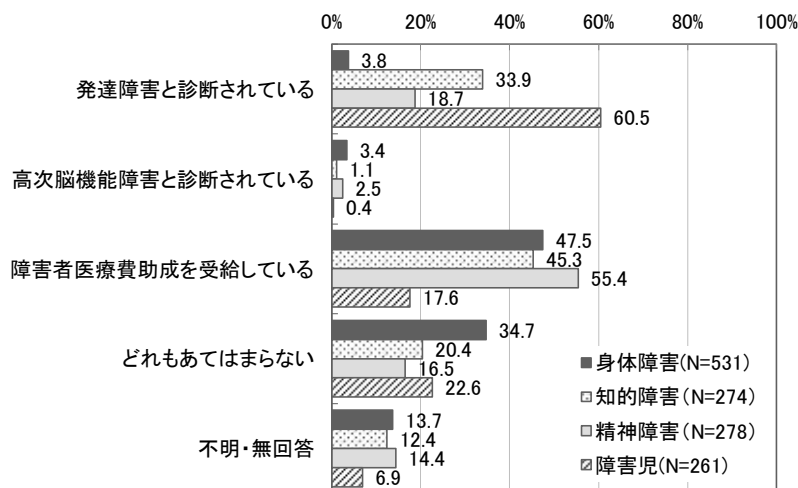
## (2)障害の状況について

○障害の状況では、障害児の回答者の 60.5%で発達障害との診断があります。(図表 2-1)

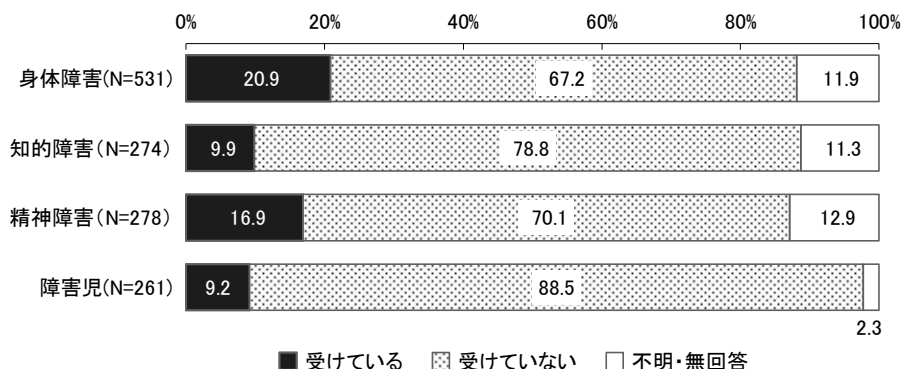
○医療的ケアの必要な人は各障害で約 10%~20%となっています。(図表 2-2)

○現在受けている医療的ケアは、「服薬管理」が身体障害で 36.0%、知的障害で 59.3%、精神障害で 68.1%、障害児で 54.2%と高くなっています。(図表 2-3)

図表 2-1 障害の状況、障害者医療の受給(複数回答)



図表 2-2 医療的ケアの状況(単数回答)



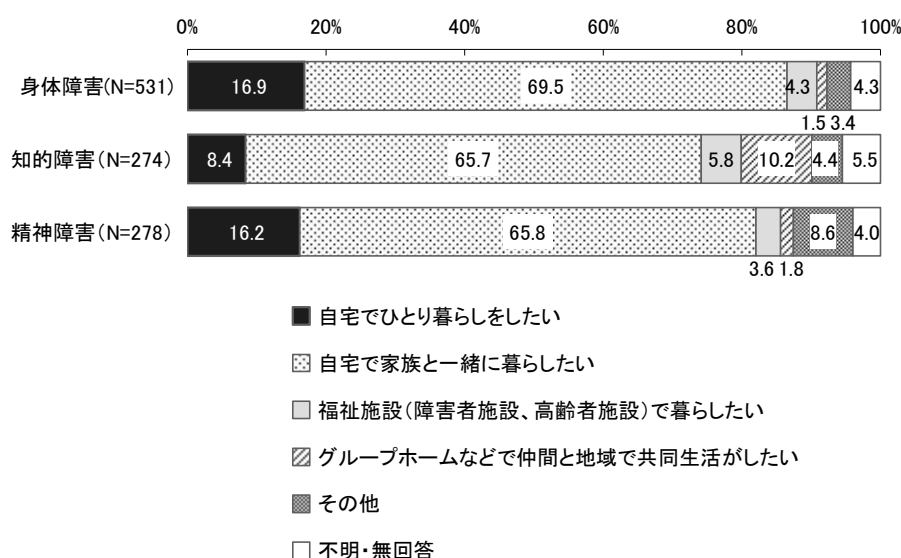
図表 2-3 現在受けている医療ケア(複数回答)

	身体障害(N=111)	知的障害(N=27)	精神障害(N=47)	障害児(N=24)
第1位	服薬管理(36.0%)	服薬管理(59.3%)	服薬管理(68.1%)	服薬管理(54.2%)
第2位	透析(22.5%)	その他(29.6%)	その他(27.7%)	その他(29.2%)
第3位	その他(18.0%)	胃ろう・腸ろう(18.5%)	人工呼吸器(レスピレーター)(2.1%) 吸入(2.1%) 透析(2.1%)	吸引(25.0%)
第4位	ストーマ(人工肛門・人工膀胱)(10.8%)	気管切開(14.8%)		人工呼吸器(レスピレーター)(20.8%)
第5位	吸引(8.1%)	吸引(11.1%)		胃ろう・腸ろう(20.8%)

### (3)生活支援について

- 現在暮らしている場所は、いずれの障害でも「自宅で家族等と暮らしている」が概ね70%以上と高くなっています。
- 今後の希望する暮らしでも、「自宅で家族と一緒に暮らしたい」が大部分となっていますが、知的障害では10.2%がグループホームで暮らすことを希望しています。(図表3-1)
- 希望する暮らしを送るための支援は、いずれの障害でも「経済的な負担の軽減」が高くなっています。また、障害児で「生活訓練などの充実」が他に比べて高く、ニーズがあることがうかがえます。その他、知的障害、精神障害、障害児では「相談対応などの充実」も比較的高くなっています。(図表3-2)

図表3-1 今後3年以内の希望する暮らし方（単数回答）



図表3-2 希望する暮らしを送るための支援（複数回答）

	身体障害 (N=531)	知的障害 (N=274)	精神障害 (N=278)	障害児 (N=261)
第1位	経済的な負担の軽減 (44.8%)	経済的な負担の軽減 (46.0%)	経済的な負担の軽減 (68.3%)	経済的な負担の軽減 (61.7%)
第2位	必要な在宅サービスが適切に利用できること (36.0%)	相談対応などの充実 (38.3%)	相談対応などの充実 (43.9%)	相談対応などの充実 (53.3%)
第3位	在宅で医療的ケアなどが適切に得られること (28.8%)	必要な在宅サービスが適切に利用できること (33.6%)	生活に適した住居の確保 (28.8%)	生活訓練などの充実 (48.3%)

#### (4) 日中活動や雇用・就労について

- 外出頻度は知的障害、障害児で比較的多くなっています。「外出しない」と「年に数回」といった閉じこもり傾向にある人は身体障害で合わせて 6.5%、知的障害で 3.3%、精神障害で 3.2%となっています。
- 外出時に困っていることでは、「困った時にどうすればいいか心配」が知的障害、精神障害、障害児で高く、不測の事態に対する不安が大きいことがうかがえます。身体障害では「公共交通機関が少ない（ない）」などの物理的な障壁について高くなっています。（図表 4-1）  
また、年齢別で見ると、64 歳以下で「外出にお金がかかる」といった経済面での不安、65 歳以上で「道路や駅に階段や段差が多い」といったハード面での不安も高くなっています。
- 日中活動の状況では、「仕事をしている」割合がいずれの障害も約 20~30%となっています。身体障害の 65 歳以上で「自宅で過ごしている」割合が高くなっています。知的障害では「仕事をしている」と「福祉施設、作業所などに通っている」を合わせて 72.2%と、何らかの就労的な活動をしています。精神障害では「自宅で過ごしている」が 29.1%と高く、どこともつながりを持たずに暮らしている可能性があります。
- 仕事をしている障害のある人の職場での悩みでは、特に精神障害で「工作中的体調の変化に不安がある」や「自分の考えや思ったことが伝えられない」などが高くなっており、身体障害、知的障害のある人に比べて悩み等を抱えやすいことがうかがえます。（図表 4-2）
- 仕事をしていない障害者で、就労を希望すると回答した割合は身体障害で 13.1%、知的障害で 34.4%、精神障害で 45.2%となっています。

図表 4-1 外出時に困っていること（複数回答）

	身体障害 (N=531)	知的障害 (N=274)	精神障害 (N=278)	障害児 (N=261)
第 1 位	公共交通機関が少ない（ない） (23.9%)	困った時にどうすればいいのか心配 (44.9%)	外出にお金がかかる (36.0%)	困った時にどうすればいいのか心配 (41.0%)
第 2 位	道路や駅に階段や段差が多い (23.5%)	交通手段がない、少ない (23.4%)	困った時にどうすればいいのか心配 (36.0%)	切符の買い方や乗換えの方法がわかりにくい (22.2%)
第 3 位	困った時にどうすればいいのか心配 (23.5%)	切符の買い方や乗換えの方法がわかりにくい (22.6%)	周囲の目が気になる (23.7%)	周囲の目が気になる (19.9%)

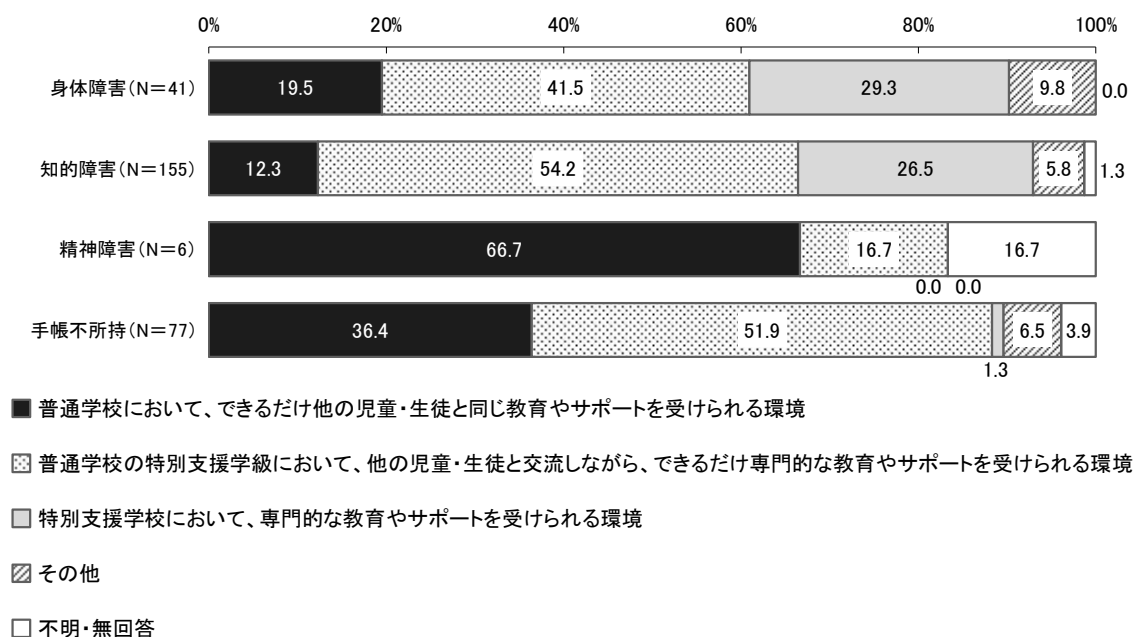
図表 4-2 仕事の悩み・不安（複数回答）

	身体障害 (N=115)	知的障害 (N=90)	精神障害 (N=72)
第 1 位	工作中的体調の変化に不安がある (20.9%)	自分の考えや思ったことが伝えられない (28.9%)	工作中的体調の変化に不安がある (44.4%)
第 2 位	賃金や待遇面で不満がある (15.7%)	職場内で障害に対する理解が不足している (13.3%)	自分の考えや思ったことが伝えられない (37.5%)
第 3 位	自分の考えや思ったことが伝えられない (12.2%)	賃金や待遇面で不満がある (12.2%) 通勤が大変である (12.2%) 相談できる人や援助者がいない (12.2%) 工作中的体調の変化に不安がある (12.2%)	職場内で障害に対する理解が不足している (27.8%)

## (5)療育・教育・就学・就職について(障害児)

- 障害児が求める療育上の支援では「きめ細やかな支援」という支援技術に関することや、「関係機関の連携」「情報提供」「日中、療育を受けられる場の充実」が50%以上と高くなっています。
- 望ましい就学環境について、「普通学校の特別支援学級において、他の児童・生徒と交流しながら、できるだけ専門的な教育やサポートを受けられる環境」が身体障害で41.5%、知的障害で54.2%、手帳不所持で51.9%と高くなっています。(図表5-1)
- 園、学校生活を送る上で充実してほしいことは、「障害に対する職員の理解促進」が75.1%と最も高くなっています。
- 将来働くことの希望では、「一般の職場」が39.5%と、一般就労を希望する回答割合が高くなっています。

図表5-1 望ましい就学環境(単数回答)



## (6) 相談状況や情報取得について

- 悩んでいることや相談したいことは、身体障害、精神障害で「自分の健康や治療のこと」、障害児で「就学や進学のこと」が高くなっています。精神障害では「生活費など経済的なこと」も高くなっています。(図表6-1)
- 相談相手はいずれの障害も「家族や親せき」といった身内が高くなっていますが、精神障害では「かかりつけの医師や看護師」、障害児では「学校などの教職員」も高くなっています。
- 相談先に求めるものは障害児では「専門性」が、その他の障害では「行きやすさ」といった立地的なことがあがっています。精神障害では「土日や平日夜などでも相談できること」といった、時間に関わらない相談も比較的ニーズが高くなっています。(図表6-2)
- 情報通信機器の使用について、『何らかの機器を使用している』割合は身体障害で71.9%、知的障害で62.4%、精神障害で83.8%となっています。
- 情報通信機器の使用については「使いたい」「利用方法が分かれば使いたい」を合わせて身体障害で63.6%、知的障害で60.6%、精神障害で79.9%、障害児で79.7%となっています。

図表6-1 悩んでいることや相談したいこと（複数回答）

	身体障害 (N=531)	知的障害 (N=274)	精神障害 (N=278)	障害児 (N=261)
第1位	自分の健康や治療のこと (34.5%)	生活費など経済的なこと (23.4%)	自分の健康や治療のこと (50.4%)	就学や進学のこと (48.7%)
第2位	生活費など経済的なこと (22.6%)	緊急時や災害時のこと (23.0%)	生活費など経済的なこと (48.6%)	仕事や就職のこと (21.1%)
第3位	介助や介護のこと (17.1%) 緊急時や災害時のこと (17.1%)	自分の健康や治療のこと (20.1%)	仕事や就職のこと (25.9%)	意思表示ができないこと (18.8%)

図表6-2 相談先に求めるもの（複数回答）

	身体障害 (N=531)	知的障害 (N=274)	精神障害 (N=278)	障害児 (N=261)
第1位	行きやすい、身近な地域で相談できること (28.8%)	行きやすい、身近な地域で相談できること (37.2%)	行きやすい、身近な地域で相談できること (36.3%)	相談対応する職員に専門性があること (55.6%)
第2位	土日や平日夜などでも相談できること (23.0%)	相談対応する職員に専門性があること (29.6%)	相談対応する職員に専門性があること (31.7%)	行きやすい、身近な地域で相談できること (42.1%)
第3位	1つの窓口で対応できること (22.6%)	土日や平日夜などでも相談できること (25.2%)	土日や平日夜などでも相談できること (30.6%)	1つの窓口で対応できること (20.7%)

## (7)保健・医療について

○医療を受ける上での困りごとは、いずれの障害でも「特に困っていることはない」が最も高くなっています。また、「特に困っていることはない」以外では、「医師・看護師などに病気の症状を正しく伝えられない」がやや高くなっています。障害児では「専門的な治療をしてくれる病院が近くにない」も高くなっています。(図表7-1)

図表7-1 医療を受ける上で困っていること（「特に困っていることはない」を除く）（複数回答）

	身体障害 (N=531)	知的障害 (N=274)	精神障害 (N=278)	障害児 (N=261)
第1位	医師・看護師などに病気の症状を正しく伝えられない (13.6%)	医師・看護師などに病気の症状を正しく伝えられない (28.5%)	医師・看護師などに病気の症状を正しく伝えられない (24.5%)	医師・看護師などに病気の症状を正しく伝えられない (17.6%)
第2位	いくつもの病院に通わなければならない (12.6%)	医師・看護師などの指示や説明がよくわからない (20.1%)	いくつもの病院に通わなければならない (16.5%)	専門的な治療をしてくれる病院が近くにない (17.2%)
第3位	医師・看護師などの指示や説明がよくわからない (10.0%)	いくつもの病院に通わなければならない (12.0%)	医療費の助成制度がわかりにくい (10.8%)	いくつもの病院に通わなければならない (13.0%)

## (8)障害福祉サービス等について

○サービスにおいて、「今より利用を増やす」割合が高いサービスは、身体障害では「居宅介護」「短期入所」、知的障害では「移動支援」「短期入所」「共同生活援助」「日中一時支援」「居宅介護」、精神障害では「就労継続支援（A型・B型）」「就労移行支援」「就労定着支援」「計画相談支援」「地域移行支援」、障害児では「放課後等デイサービス」「移動支援」「日中一時支援」「児童発達支援」「障害児相談支援」「レスパイト」となっており、これらのサービスでは利用量が増加する可能性があります。

図表8-1 今より利用を増やすサービス（複数回答）

	身体障害 (N=531)	知的障害 (N=274)	精神障害 (N=278)	障害児 (N=261)
第1位	居宅介護（ホームヘルプ） (4.5%)	移動支援 (8.4%)	就労継続支援（A型、B型） (6.8%)	放課後等デイサービス (19.2%)
第2位	短期入所（ショートステイ） (4.0%)	短期入所（ショートステイ） (7.7%)	就労移行支援 (6.5%)	移動支援 (11.9%)
第3位	移動支援 (3.6%)	共同生活援助（グループホーム） (6.9%)	就労定着支援 (5.8%)	日中一時支援 (8.4%)
第4位	計画相談支援 (2.4%)	日中一時支援 (6.9%)	計画相談支援 (5.0%)	児童発達支援 (6.5%)
第5位	施設入所支援 (2.1%)	居宅介護（ホームヘルプ） (5.5%)	地域移行支援 (3.6%)	障害児相談支援 (5.7%) レスパイト (5.7%)



## (9) スポーツ・文化芸術活動について

○スポーツ・文化芸術活動に参加している障害者の割合は、身体障害で13%、知的障害で18.6%、精神障害で5.8%となっています。今後の参加意向は、知的障害、精神障害で約10%～20%みられます。

○スポーツ・文化芸術活動への参加条件は、身体障害、知的障害で「身近なところで活動できる」、精神障害で「経済的な負担が少ない」が高くなっています。(図表9-1)

図表9-1 スポーツや文化芸術活動への参加条件(複数回答)

	身体障害(N=137)	知的障害(N=107)	精神障害(N=70)
第1位	身近なところで活動できる(58.4%)	身近なところで活動できる(55.1%)	経済的な負担が少ない(67.1%)
第2位	活動情報の提供(40.1%)	活動情報の提供(46.7%)	身近なところで活動できる(60.0%)
第3位	障害のある人もない人も一緒に活動できる(37.2%)	適切な指導者やリーダーがいる(39.3%)	活動情報の提供(55.7%)

## (10) 権利擁護について

○差別等の経験は知的障害、精神障害で約30%が「ある」となっています。「少しある」も含めると、身体障害以外では50%以上が差別等を経験しています。

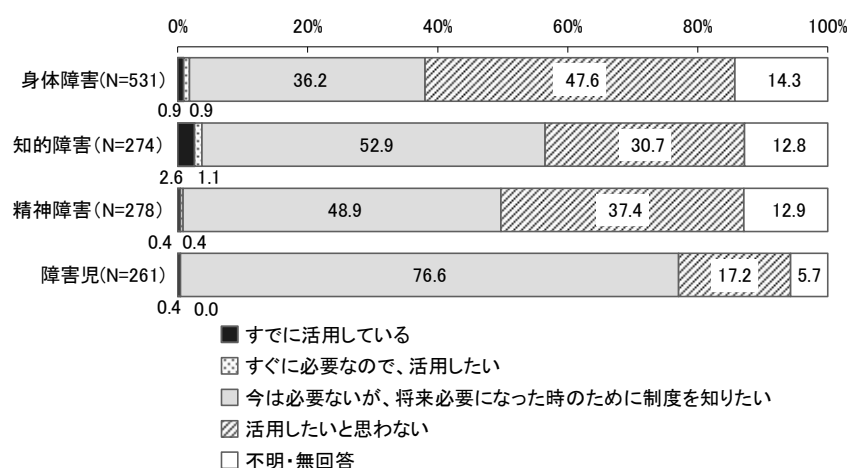
○差別等の経験の場所は知的障害、精神障害、障害児では「学校・仕事場」、身体障害、知的障害、障害児では「外出中」が高くなっています。精神障害では「仕事を探するとき」も高くなっています。

○成年後見制度についてはいずれの障害も「制度も内容も知らない」が40%弱となっており、周知が進んでいないことが伺えます。

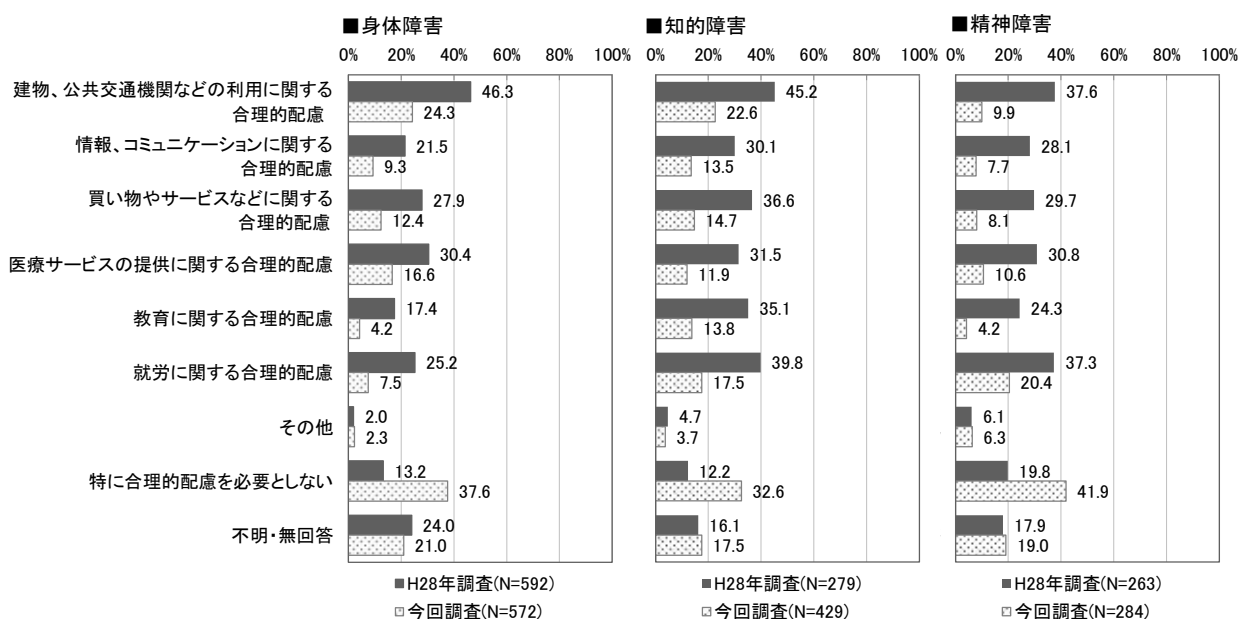
○成年後見制度の利用意向では「今は必要ないが、将来必要になった時のために制度を知りたい」が知的障害で52.9%、精神障害で48.9%、障害児で76.6%と高くなっており、情報取得のニーズがあることが伺えます。(図表10-1)

○合理的配慮に求めることで平成28年調査と比較すると、「特に合理的配慮を必要としない」が高くなっており、社会において、合理的配慮に取り組む意識が一定程度醸成されてきていることも要因のひとつとして考えられます。(図表10-2)

図表10-1 成年後見制度の利用状況・利用意向(単数回答)



図表 10-2 合理的配慮に求めること（複数回答）



### (11) 地域の福祉について

- 受けたいボランティアでは、「緊急時の連絡や応対」が知的障害で 31.8%、精神障害で 28.4%と、それぞれ高くなっています。
- 地域行事等への参加状況は身体障害、知的障害で 10%強、精神障害で 6.8%と、低くなっています。知的障害では「今後参加したい」が 19.7%と、他の障害に比べて参加意向が高くなっています。
- 参加したい地域の活動や行事は、「地域の行事・イベントへの参加」が身体障害で 53.9%、知的障害で 67.0%、精神障害で 64.2%と、それぞれ最も高くなっています。精神障害では「障害を理解する地域の勉強会や講演への協力」が他の障害と比べて高くなっており、障害特性が外見上でわかりにくい精神障害に対する理解を深めてほしいと希望していると考えられます。(図表 11-1)

・ 図表 11-1 参加したい地域の活動や行事（複数回答）

	身体障害 (N=128)	知的障害 (N=91)	精神障害 (N=53)
第1位	地域の行事・イベントへの参加 (53.9%)	地域の行事・イベントへの参加 (67.0%)	地域の行事・イベントへの参加 (64.2%)
第2位	地域で活動する団体（自治会・子ども会・老人クラブなど）への参加 (39.1%)	地域の防災活動への参加 (20.9%)	障害を理解する地域の勉強会や講演への協力 (28.3%)
第3位	地域の防災活動への参加 (30.5%)	地域の行事・イベントの開催の手伝い (15.4%)	地域で活動する団体（自治会・子ども会・老人クラブなど）への参加 (26.4%)

## (12)災害時のことについて

○災害時の避難については「できない」が知的障害で 45.6%、障害児で 66.3%と高くなっています。

○一緒に避難してもらおう人がいない割合は身体障害で 11.5%、精神障害で 15.1%となっています。

○災害時に困ることは身体障害、知的障害、障害児で「避難場所の設備（トイレなど）や生活環境が不安」、精神障害で「投薬や治療が受けられない」がそれぞれ最も高くなっています。知的障害、精神障害、障害児では「周囲とコミュニケーションがとれない」も高くなっています。

（図表 12-1）

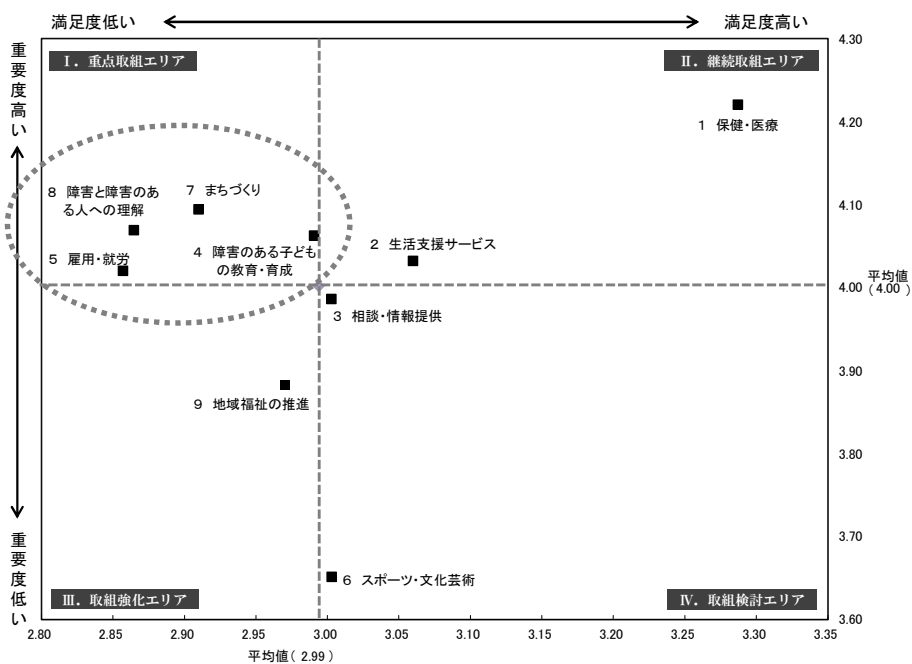
図表 12-1 災害時に困ること（複数回答）

	身体障害 (N=531)	知的障害 (N=274)	精神障害 (N=278)	障害児 (N=261)
第1位	避難場所の設備（トイレなど）や生活環境が不安 (51.4%)	避難場所の設備（トイレなど）や生活環境が不安 (50.4%)	投薬や治療が受けられない (60.8%)	避難場所の設備（トイレなど）や生活環境が不安 (53.3%)
第2位	投薬や治療が受けられない (47.5%)	周囲とコミュニケーションがとれない (44.5%)	避難場所の設備（トイレなど）や生活環境が不安 (51.4%)	周囲とコミュニケーションがとれない (51.3%)
第3位	安全なところまで、迅速に避難することができない (39.5%)	安全なところまで、迅速に避難することができない (41.6%)	周囲とコミュニケーションがとれない (26.6%)	安全なところまで、迅速に避難することができない (49.0%)

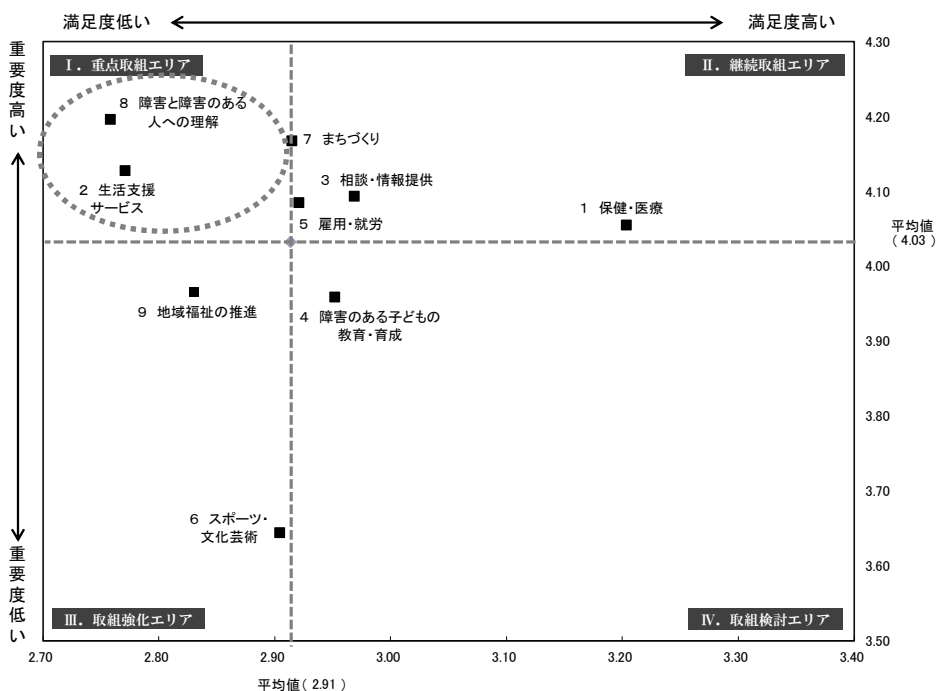
### (13) 障害者施策のこについて

- 満足度が低く、重要度が高い『重点取組エリア』に含まれる施策は、3 障害共通の事項は「障害と障害のある人への理解」となっています。
- 『重点取組エリア』に含まれる施策は身体障害で、「障害のある子どもの教育・育成」「雇用・就労」「まちづくり」「障害と障害のある人への理解」、知的障害で「生活支援サービス」「障害と障害のある人への理解」精神障害で「雇用・就労」「障害と障害のある人への理解」障害児で「障害のある子どもの教育・育成」「雇用・就労」「障害と障害のある人への理解」となっています。(図表 13-1~4)

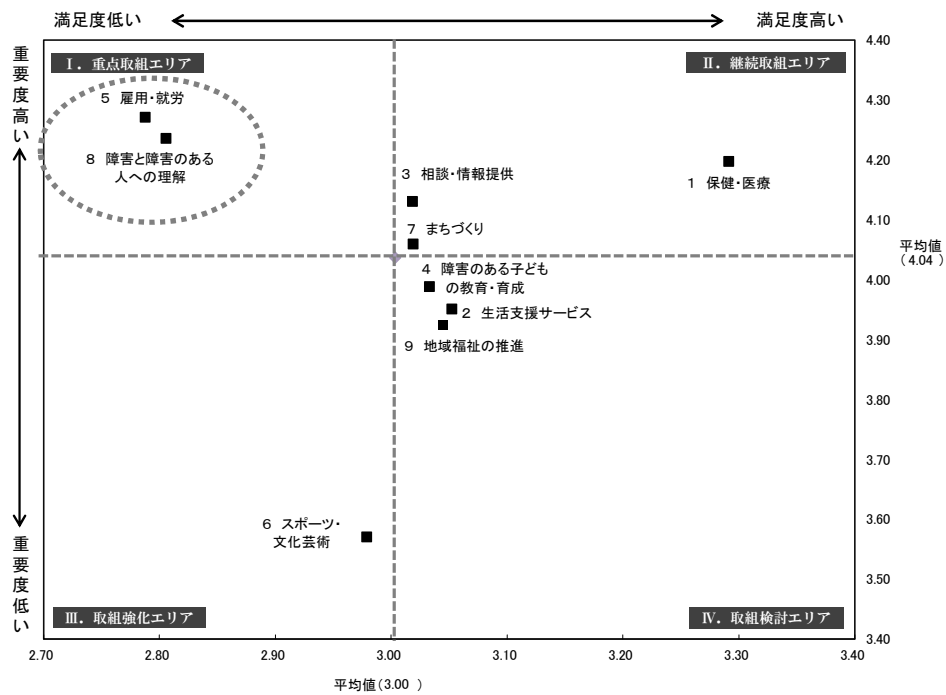
図表 13-1 施策の満足度・重要度（身体障害） N=531



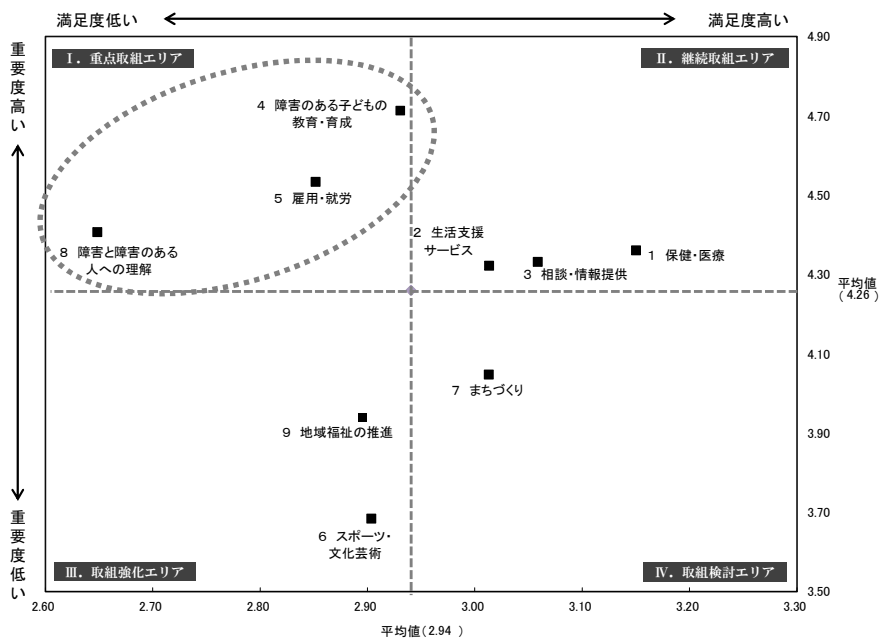
図表 13-2 施策の満足度・重要度（知的障害） N=274



図表 13-3 施策の満足度・重要度（精神障害） N=278



図表 13-4 施策の満足度・重要度（障害児） N=261



## (14) 支援者について

○支援者の年齢はいずれの障害でも「40～64歳」が最も高くなっています。「65～74歳」「75歳以上」といった高齢の支援者の割合は、身体障害で44.6%、精神障害で39.6%を占めています。

○介助で困っていることでは、身体障害、知的障害では「緊急時の対応に不安がある」、精神障害、障害児では「精神的な負担が大きい」が高くなっています。(図表14-1)

○障害児の保護者や家族へ必要な支援では、「発達障害児や発達に不安のあるお子さんの教育経験者の体験談や情報提供」「保護者への心理的ケアやカウンセリング」「専門家による子育て相談」が高くなっています。

図表14-1 介助で困っていること（複数回答）

	身体障害 (N=310)	知的障害 (N=194)	精神障害 (N=159)	障害児 (N=238)
第1位	緊急時の対応に不安がある (46.1%)	緊急時の対応に不安がある (47.4%)	精神的な負担が大きい (45.3%)	精神的な負担が大きい (49.2%)
第2位	代わりに介助を頼める人がいない (30.0%)	代わりに介助を頼める人がいない (33.5%)	経済的な負担が大きい (33.3%)	緊急時の対応に不安がある (40.8%)
第3位	精神的な負担が大きい (29.0%)	精神的な負担が大きい (33.5%)	緊急時の対応に不安がある (28.9%)	自分の余暇・仕事などのための時間がとれない (34.5%)